鈴木剛さん提供

どれだけ　迷うてもねんぶつの中　称えても　称えなくてもねんぶつの中
信じても　信じなくてもねんぶつの中　ナムアミダブツ　ナムアミダブツ
ナムアミダブツの　おん声が　胸にひびいてナムアミダブツ

木村無相さん

安穏の鐘(平和の鐘)

今年も暑い日、セミの声が今の生を鳴き響かせていたその日。きっと当時も蝉の声とともにラジオから流れる敗戦の声にただ、何が起こったのか葛藤の念をその場に漂わせるしかなかったのではないのでしょうか。1945年8月15日、その日の記憶を覚えておられる方々も年々と少なくなってきている昨今。また，為政者による回帰が危ぶまれてきました。人間は自分たちの欲望に、煩悩に振り回されているだけの愚かな身であることに気づくことなければ結局過ちを繰り返し、繰り返ししていく存在であることは過去が物語っています。私は、再びその日が来ることは決して望まない、「兵我無用」と声をあげていきます。「世の中安穏なれ」、平和を願いつつ鐘を撞きました。

お盆を迎えるにあたって、お磨き奉仕にお世話になりました。熟練さんに若手さんにしっかり、ゴシゴシ。みなさん和気あいあいと作業を進めていただき早く終了できました。また、内陣の仏具の清掃もしていただきました。おかげさまでたいへんきれいになりました。

お盆汁　8月16日は、お盆汁(お講)の日。旧正月とお盆の16日聖人のご命日には毎年組の方々が集いお斎を作りお講をお勤めします。
今年は上組の当番です。お勤め後若院がお話をさせていただきました。【護ってもらう？】お墓参りにどんな印象をお持ちでしょうか。ある人は「ご先祖様に護ってもらうため」ということを言われていました。自分では防ぎきれない事故や、災害を少しでも避けて、安心して暮らせるように、という思いがあるのでしょう。できるならば、事故にも災害にも、遭いたくない。できるだけ病気もせず、安らかに暮らしていきたいと思うのが私達ですね。もちろんその思い通りになればよいのですが、思い通りにならないのが世の中でしょう。その中で、「護る」ということを考えてみた時に、私たちの浄土真宗のみ教えの中にも、「お念仏するものは、数限りないほどの多くの仏さまに護られる」という言葉がありました。この時の「護る」とは、仏さまのみ教えを人生のよりどころとしていきることです。それは、世間の迷信や占いなどに惑わされずに自分の人生を精一杯生ききる事ができるということです。また、人生の中に出遭う、事故や災害または病気も、私の人生の1ページとして、受け止め、その悲しみや寂しさと向き合いながらも、それを乗り越えていく事ができるみ教えをいただくのです。私の受けとめではただ悲しいだけ、苦しいとしか受けとめられないことも、み教えの中で再び受けとめ直すことができます。どんな人生も、いのちの大切な姿だったと気づかせていただくみ教えです。護るとは、他の迷信に惑わされずに、私の人生の大切なことに気づかせていただくことを言うのでしょう。　若院盆汁法話

8月13日～15日までが雨の為にお墓参りができません。テレビを観て雨は北海道だけではないことを知り気分が滅入ります。

さて、私ごとでは有りますが、気分転換のためによく大海原の眺望を頂きにドライブを致しますが、その景観地にゴミが散乱されていて気分が湿ります。何故にゴミを投げるのでしょうか、癒しを頂きながらゴミを捨てる、その気持ちが解りません。私達夫婦は、最近はゴミ袋と火ばさみを持参してドライブを致します。景勝地で癒しを頂いた後には、ゴミ拾いをして帰宅します。お願いです、皆さんゴミは持ち還りましょう。

8月16日
北海道大島義勝さん

おねがい景勝地を汚さないで ゴミは持ち帰りましょう

●私達夫婦は、よくドライブをする
月に三・四回、多い時には五回は行く
特に海を眺めながらの食事は心地良い
大海原に心が開けて気持ちが和らぐ

●記念写真を撮る為に撮影場所を探す
雑草に絡んだゴミが多い事に気が行く
タバコの吸い殻、チリシ・ジュース缶
食事後のポリ容器、自動車の部品等々

●何処の景勝地へ行ってもゴミだらけ
癒しを頂く場所に何故にゴミを捨てる
景観を楽しんで帰る車、一休みの車々
彼女とのデートで食事を楽しむ車々

●今日も大海原を観ながらドライブす
デートを楽しむ若人の車から吸い殻が
ポイと捨てられる、彼女は注意しない
何故にゴミを捨てるのだろう・・・

●何時からか人目を憚らずにゴミ拾い
ドライブにポリ袋と火ばさみを持参し
乗用車の荷台にゴミ袋積んで帰札する
ゴミを選別し集積場へ出す時に思う
おねがい景勝地を汚さないで

いかるがの
秋の実りの
古代米
根を張るそばに
いなごとびかふ

新米の
量をはかりて
一斗枡をはみでる
米の白きかがやき

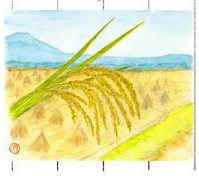
東北の
初秋の入日
あかあかと
尾をふりながら
みてゐるサクラ
東京　小笠原孝枝さん

「もう、10 年も経ちましたし木も傷んでますなぁ、お寺に皆さんが入られる要（かなめ）ですから。スロープ付けた折は、手すりもしたかったのですが私も厳しい時でしたから、おかげさんで今まで頑張って来られました」と、飯田満さんの御懇意で山門の塗り替えと、両側面の板木、瓦の新調。閼伽やの塗り替え、スロープの手すりをつけていただきました。

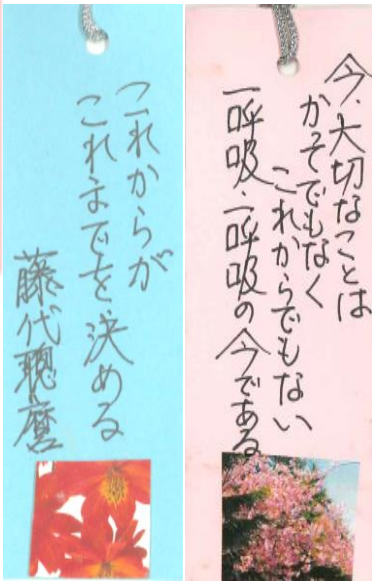
長月の句

豊年や黄金波うつ美(うま)し国
暑い不と云わぬ日の無き残暑かな
ひとり居の怠慢に喝や秋の雷
かなかなや暮れなづみゐる仏線墓
秋暑し空に歪みて月赤し
面影や振り向きたれば秋扇
新涼や暮れ刻まれ南無阿弥陀仏

落合登代子



鈴木剛さん提供



札幌市大島光子さん

台風災害お見舞い申し上げます。少しずつ秋の気配が感じられます。この頁、ハウステンボスなどの写真提供は埼玉県白岡市鈴木剛（釋威徳）さんよりいただきました。有難うございました。皆様くれぐれも、お大事にて、なんまんだぶつ、